



地域医療の推進

いがらし
五十嵐

たかし
卓

(82歳)

住所
大仙市

東北大学医学部を卒業後、昭和32年から秋田県厚生連仙北組合総合病院第2内科長として勤務、その後、副院長、院長を歴任し、昭和64年からは名誉院長として長年にわたり地域医療の進展に尽力している。

また、全国農村医学会理事として高血圧対策や出稼者検診対策にあたるなど、農村医療の発展にも大きく貢献している。

(財)秋田県臓器移植推進協会（現(財)あきた移植医療協会）の設立にあたっては献身的な努力をし、平成7年より理事長として臓器移植の普及啓発に貢献している。

現在は介護老人保健施設「八乙女荘」管理者を務めるなど、医療・福祉の連携や保健衛生の向上に大きく寄与している。



民謡の普及・発展

なか むら つかさ
中 村 主

(77歳)

住所
鹿角市

昭和24年に鹿角市の大湯ばやし保存会に入り、親子二代にわたる郷土芸能の顕揚、保存、伝承に努めた。また、後進の指導・育成に寄与したことが認められ、大湯大太鼓保存会より感謝状を授与されている。

昭和35年、NHK秋田放送局主催の「全県農家のど自慢大会」での優勝を始め、NHK主催「さなぶり民謡大会」での入賞など、数々の民謡大会で上位入賞を果たし、本格的に民謡界に入る。

昭和37年に民謡中村会を結成し、鹿角市、大館市に民謡教室を開設、鹿角地域の伝統ある民俗遺産としての鹿角民謡を始め、鹿角の伝統芸能などの保存・継承に努力し、後継者育成と民謡の普及を図るため、平成4年から「鹿角民謡全国大会」を鹿角市で毎年開催しており、本年で第14回目を迎える。

昭和45年に日本郷土民謡協会に加入し、平成5年には日本郷土民謡協会本部理事に就任、同協会の全国大会審査委員として全国的な活動を行っている。

また、平成4年からは同協会の秋田地区連合会会長、秋田県民謡協会副理事長に就任し、秋田県民謡界の技能向上と次世代への秋田民謡の伝承について大きく貢献している。



バレエの普及・発展

とよしま
豊島シゲ

(芸名 くまがいしげこ
熊谷重子)

(73歳)

住所
秋田市

昭和29年、秋田市に熊谷重子創作バレエ研究所を開設して以来、毎年新作を発表し、平成15年には50周年記念発表会を開催した。

昭和32年の秋田市文化団体連盟創立に寺田九空氏などとともに参画し、役員各氏の尽力と各方面の理解と協力を得ながら、現在では大きな団体として成長を遂げている。

昭和33年からは毎年、県、秋田市などの芸術祭に出演するとともに、県内の小・中学校でバレエ鑑賞教室を開催して児童生徒の情操教育に努めた。

また、文化交流使節団としてヨーロッパを2回訪問、アメリカの各地も視察研修したほか、日中友好芸術団員として研究所の生徒とともに上海市でモダンバレエを発表した。

平成7年には日本で開催の「93アジア国際舞踊フェスティバル・イン・秋田」で実行委員として活躍し、大きな成果を収めた。

平成13年ワールドゲームズ秋田大会では、開会式でモダンバレエを創作発表した。長年優れた後継指導者の育成にも力を入れ、それらの指導者とともに各種文化行事の企画運営に尽力し、本県の芸術文化の振興発展に大きく功績を残している。



文化財の保護・ 動物生態学の研究

おがさわら
小笠原

こう
嵩

(70歳)

住所
秋田市

昭和42年、秋田大学教育学部に奉職以降、平成14年同大学教育文化学部を退官するまで、生物学、特に動物生態学の教育指導、研究に努めるとともに、長年にわたり、多くの有為な人材を県内外に送り出してきた。

また、白神山地や森吉山を中心とした天然記念物クマゲラの生態及び声紋に関する一連の研究は、本州に生息する個体と北海道や国外のものとを生態学上明確に分類するなど学術上優れた価値付けを行ったものとして国内外から高い評価を得ている。

白神山地の保護に関する研究や活動については、平成2年に林野庁の白神山地森林生態系保護地域設定委員に、平成4年に環境庁の白神山地自然環境保全地域設定検討委員に就任し、それぞれの委員会の中で中心的な役割を果たしてきた。

こうした活動成果がまた、白神山地が平成5年12月の世界遺産条約に基づく自然遺産に登録される原動力となって結びついており、氏の果たしてきた功績は誠に大きなものがある。

さらに、昭和59年8月からは本県の文化財保護審議会委員となり、文化財保護行政の推進に関わっている。主に生物（動物）に関わる天然記念物の保護指導の推進に努め、広く本県の文化財の保存と活用のために、大きく貢献してきた。この他、長年国土交通省、環境省、森林管理局などに設置されている各種の審議会、検討委員会の委員も務めるなど、自然保護、文化財保護行政全般に大きな影響力を発揮した。



保健衛生・
地域医療の推進

むら た じゅん じ
村 田 純 治

(67歳)

住所
秋田市

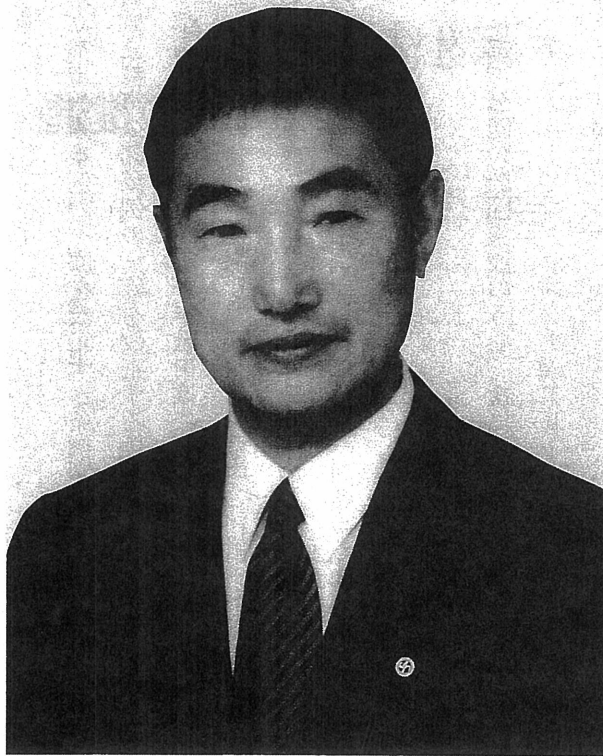
平成11年から日本産婦人科医会秋田県支部長を務め、本県の産婦人科医療をリードし、思春期保健、母子保健、周産期医療などにおいて多大な功績を収めている。

思春期保健の分野では、本県若年者の人工妊娠中絶の増加傾向に危機感を抱き、平成11年から県教育庁と協同で高校生への性教育講座を立ち上げ、現在は中学生まで対象を広げている。その結果、人工妊娠中絶率は大幅に低下することとなった。また、性教育指導マニュアルを編集・発刊し、県内外の性教育の基本として広く利用されている。

母子保健の分野では、出産時の安全確保と少子化対策に配慮し、妊婦健診の補助事業の拡大に取り組み、平成12年から14年にかけて69市町村を一人で訪問、議会と行政に説明し、全国で最も進んだ妊婦健診補助事業を実現させた。

周産期医療の分野では、周産期医療の地域ネットワークづくりを開始し、平成14年の秋田県周産期医療協議会の立ち上げに尽力した。その結果、総合周産期母子医療センターが平成19年4月に開設される運びとなった。

また、自らは昭和62年に開業以来、分娩を約8千件取り扱い、子宮がん検診、乳がん検診を精力的に実施し、地域の保健・医療・衛生・教育の発展に多大な貢献をしている。



産業・経済の振興・発展

たか く しん いち
高 久 臣 一

(64歳)

住所
湯沢市

昭和36年に高校を卒業後、若くして家業の建設業に従事し、昭和46年には株式会社丸臣高久建設代表取締役役に就任し、卓越した経営手腕を発揮してきた。

その間、建設業労働災害防止協会秋田県支部、社団法人全国建設業協会、社団法人秋田県建設業協会、財団法人秋田県社会保険協会、財団法人全日本建設技術協会等より数多くの表彰を受けている。

また、業界活動においても、平成10年に湯沢市建設業協会会長に就任し、労働災害防止のための安全活動の推進、作業場における安全管理の徹底を図るなど、災害事故の撲滅に献身的に努め、地域での雇用の確保などにも多大な貢献をしている。

さらに、昭和61年に湯沢市商工会理事に就任したことを契機に、地域貢献活動に積極的に取り組んでおり、平成8年には湯沢商工会議所会頭に就任し、湯沢商工業界において指導的な役割を果たし、地域振興に大きく寄与してきた。

その中で、中心市街地の活性化を図るため、平成14年にまちづくり会社である「株式会社TMOゆざわ」を設立、大型空き店舗の利活用等について精力的に取り組むなど、湯沢市の将来を見据えた識見と行動力は各方面から高く評価されている。



民生の安定・向上

みや はら ぶん や
宮 原 文 彌

(64歳)

住所
大館市

昭和44年から36年の長きにわたり、保護司としての職務に努め、多くの保護観察対象者を再出発に導き、地域社会へ送り出している。

常に社会奉仕の精神に立ち、人間愛を持って人に接する姿勢と、保護観察対象者の理解に努め親身になった氏の指導は、保護観察対象者はもちろん、地域住民からも信望を得ている。

現在は、大館地区保護司会会長のほか、大館調停協会会長、大館市少年保護育成委員会会長、大館市社会福祉協議会会長の要職にある。

また、更生保護思想の普及に努める傍ら、犯罪予防活動にも心血を注いでおり、青少年の健全育成と非行防止を図るための住民集会を開催するなど、地域住民の安全と福祉増進を願い、官民一体となって地域に即した活動が展開できるよう尽力している。

